

共学

学校法人ワオ未来学園 ワオ高等学校

哲学などの教養をベースにした新しい教育スタイル

二〇二一年に設立された通信制高校。「能開センター」「個別指導Axis」などの学習塾を全国展開する「ワオ・コーポレーション」が、「日本の教育を変える」という意気込みで、新しい形の教育を展開する。生徒一人ひとりのやりたいことをあと押し、自分の頭で考えて人生を、さらには時代を切り開く「ゲームチェンジする力」を養うことを目指している。

そうした未来に直結する学びとして、オーストラリアの提携校への留学、海外大学進学などを指す「留学コース」、AI技術の取得や得意分野での起業などを指す「AIコース」「起業コース」の三つのオプションプログラムを用意している。

ゲームチェンジする力の土台には、確たる基礎的な教養が必要だ

というのがワオ高独自の考え方だ。「自分らしく生きるには、自分の考えを持っていないといけません。それを養う前提として必要なのが、哲学などの教養です」と、

副校長の平田強先生。オプションプログラムを下支えする形で、多くの通信制高校でも行っている教科書による基礎学習に加え、哲学、自然科学、数理科学、経済の分野を探究する「教養探究」のカリキュラムを設けている。これらの科目は、一つの正解を求める従来型の「勉強」とは異なり、「知ること」「考えること」「対話すること」により、たとえば「遺伝子組み換え食品の是非」といった、簡単に答を一つに絞れない実社会の問題に向き合う「学び」を実践する。

つまりワオ高の学びの形は、「教科書による基礎学習」「教養探究」という土台の上に、留学やAIや起業について学べる「オプションプログラム」があり、個々の興味・

目標に沿った学びができる三層構造のピラミッドになっている。

それについて、AIコース二年の男子生徒Aさんは、「AIを含めたPCでのクリエイティブなことに興味があります。自分で開発したAIを使って社会の問題を解決するのが夢です。そうした未来の発展についての新しい考えは、基礎的なものに基づいて生まれるので、哲学などを学ぶのは大切だと思います」と語る。

授業は、ふだんはオンラインで進められ、それに加え年二回岡山市のキャンパスで三泊四日のスクーリングがある。ワオ高ではウェブ上にバーチャルキャンパスを設けており、そこで毎朝、ホームルームが行われている。友人同士で会話できるサロン、外部講師の講義などに参加できるセミナールーム、先生に個別相談ができる個室やオンライン自習室もあり、二十四時間自由にアクセス可能だ。リアルキャンパスでは、図書館や

体育館を毎日開放していて、生徒は自由に使える。昨年は生徒主導でオンラインによる文化祭を初めて開催。自主的なクラブ活動も盛んだ。

入学後に
海外転勤同行も可能

帰国生のための特別な入試は行っていないが、通信制ゆえに居住地の制限はなく、帰国生のみならず、海外生も受験・入学できる。

入学試験は、大学の総合型選抜のような面接試験。毎年、哲学的なことや社会問題を題材に掲げ、それについて答えるスタイルで、その内容は事前にウェブサイトで公開される。一定の日本語力は必要だが、現地校・インターナショナルスクールでしか学んだことがなくても十分に対応できる試験内容だ。

先のAさんも、海外在住経験はないが、幼稚園から中三まで沖縄県のインターナショナルスクールに通っていた。

「インターでは、自分がやりたいことを積極的にできるのがすごく楽しかった。高校進学時の学校選びの基準は『自分の可能性を潰さない』だったので、インターに近



Aさん

所在地：〒700-0826

岡山県岡山市北区磨屋町7-2
(全国47都道府県・海外より入学可)

TEL：086-206-3930 /

FAX：086-206-4120

URL：https://www.wao.ed.jp

出願資格：

【新入学】3月に中学校を卒業見込みの者、または卒業した者。

【転入学】出願時に高等学校に在学している者（休学中を含む）。

【編入学】出願時に高等学校を中途退学している者。

※出願前に個別相談にて詳細を確認のこと。

バーチャル
キャンパス



負ける学びの内容になつていて、帰国生の受け

い形で自分のポテンシャルを創造できる理想的な場だと思つてワオ高を選びました」と語る。

平田副校長

も「日本に帰つてきたときに、日本の教育になじめない」といふ帰国生も多いと思いますが、そういう皆さんにも対応できるように、ワオ高を選びました」と



Bさん

入れ体制に太鼓判を押す。

入学後に親の海外転勤に同行することも可能だ。実際に今年四月に入学し、六月から香港に同行している留学コース一年の女子生徒

Bさんに、渡航前に話を聞いた。

「中学のときから父の香港転勤の話があつたのですが、延びて高校入学後になりました。日本の高校卒業資格が取れ、海外に行つても変わらず学べるということ、ワオ高を選びました」

父親は長期滞在になる見込みで、卒業後の進路に海外大学への進学も選択肢にあるため、海外進学や留学のサポート体制が手厚いのも魅力だった。

海外大学進学も 強力にサポート

海外大学進学を目指し、現在英語づけの毎日を送っているのが、留学コース三年の女子生徒Cさんだ。

「たまに英語で夢を見ることもあります(笑)。小さいころから英会話を習っていて、英語が大好き。小五のときにはイギリスにホームステイにも行きました」

海外の大学へ行きたいという夢を抱きながら静岡県内の全日制高校でグローバル教育を受けたが、ほとんどの生徒が国内大学進学希望で、海外大学進学へのバックアップ体制がなかったことに不安を感じ、ワオ高に転入した。

「転校にあたって自分の心にも変化があり、心理学に興味を持ちました。いまの目標は、心理学の研究が最も進んでいるアメリカの大学に行くことです。ワオ高には専門の留学エージェントのかたがいて、定期的にミーティングをしています。そこで自分の現在のレベル、志望校に必要なTOEFLの点数などを具体的に把握できるので、しっかり目標を持って学べます」

Bさんは、「英会話や体操・バスケットの習い事とスポーツを香港でも続け、現地の友達をつくりたい」と語る。それら学校外の活動との



Cさん

両立がしやすいのも、通信制の強みだろう。もちろんワオ高内でも、個人的な友人をつくる機会はたくさんある。授業やバーチャルキャンパスでのチャットを通じて全国に散らばる生徒が議論を重ねてお互いの考えを知つたうえで、スクーリングで実際に会つて交友関係を深めるケースが多い。

最後に、三人にワオ高のいちばんいいところを聞いた。

「自由。それに尽きます。先生がたはサポートがとてもうまくて、何か悩みがあれば背中をちゃんと押してくれます」(Aさん)。

「オンライン授業なので、自分のしたいことをする時間が増えたこと。それで独学で広東語を始めることができました」(Bさん)。

「先生がたも生徒もさまざまなバックグラウンドがあり、いろいろな経験をしているから、『さういう考えもあるのね』と何でも受け入れてくれる。それがすごく楽しいです」(Cさん)。

(取材・文 内村浩介)